

(端裏書)

「尾崎氏^江中井より参候

御状案文」

以別紙得貴意候、然ハ深田三郎右衛門
家之義往古六拾石御米御下札

^{ニ而}頂戴仕来り候所、其後御取放^ニ

相成居候^ニ付、代々此儀^{〔折〕}

難忘残念^ニ奉存候得共

御時節柄奉恐察、又

折も無御座候^ニ付自然

打捨置候旨然ル處昨年

御用金被仰出候節

右内願も御座候故畢竟

其義蒙仰度相含

身分不相応^ニ三百両

第一番^ニ差上ケ段々

御用筋相働候由之所

此度外並合^ニ御役付

御帷子御上下等拝領

被仰付候^ニ付難有仕合

^{ニ者}奉存候得共前文之通

内願御座候義不被

仰付候故無抛乍恐

頂戴之御品御内々

御断申上度飛脚を以

一両日已前其御表へ

申上候旨右^ニ付何卒

御声計^{ニ而茂}

宜御座候間往古之通

六拾石被仰付候様

若又其義難被為

御義御座候ハ、御夫持

又^者御支配^{ニ而}も

不被仰付候^{而者}昨年
格別^ニ御用金出精
申上候御趣意も相立
不申至^而奉恐入候由
同者旧願之通
御懸声計^{ニ而}も
六拾石被仰付候得ハ
対先祖勤功相立
千万難有仕合奉存候
尤右等之義三郎右衛門
手堅キ生質故
御歎等恐入極内□□
申上兼候得共何卒
両度御内用相働
差上候義御不便^ニ
被為思召乍恐御序
も被為在候ハ、從
御前御根取様^江
御内々御咄被遊三郎右衛門
内願之筋被仰付候ハ、
冥加至極難有仕合
可奉存旨大谷新九郎より
私^江迄極内相歎申候
此段与得御堅慮
被成御序之節
御前へ御内々御詞
御取計被成候ハ、
御聞届も可被遊哉
此段御内談仕候、若
御前より御根取様迄
御頼被遊三郎右衛門内願
通成就仕候得^者
又、右御内用等相応之
儀^者追々出精相働
申上候様新九郎より取計
三郎右衛門より為差出

可申旨内咄し候御事_ニ
御座候、左候得_者畢竟
御手元御為筋_与奉存候間
急々御内々御詞之義
御取計被成可然
奉存候、右大極内為可得
貴意如此御座候、以上
十二月十二日